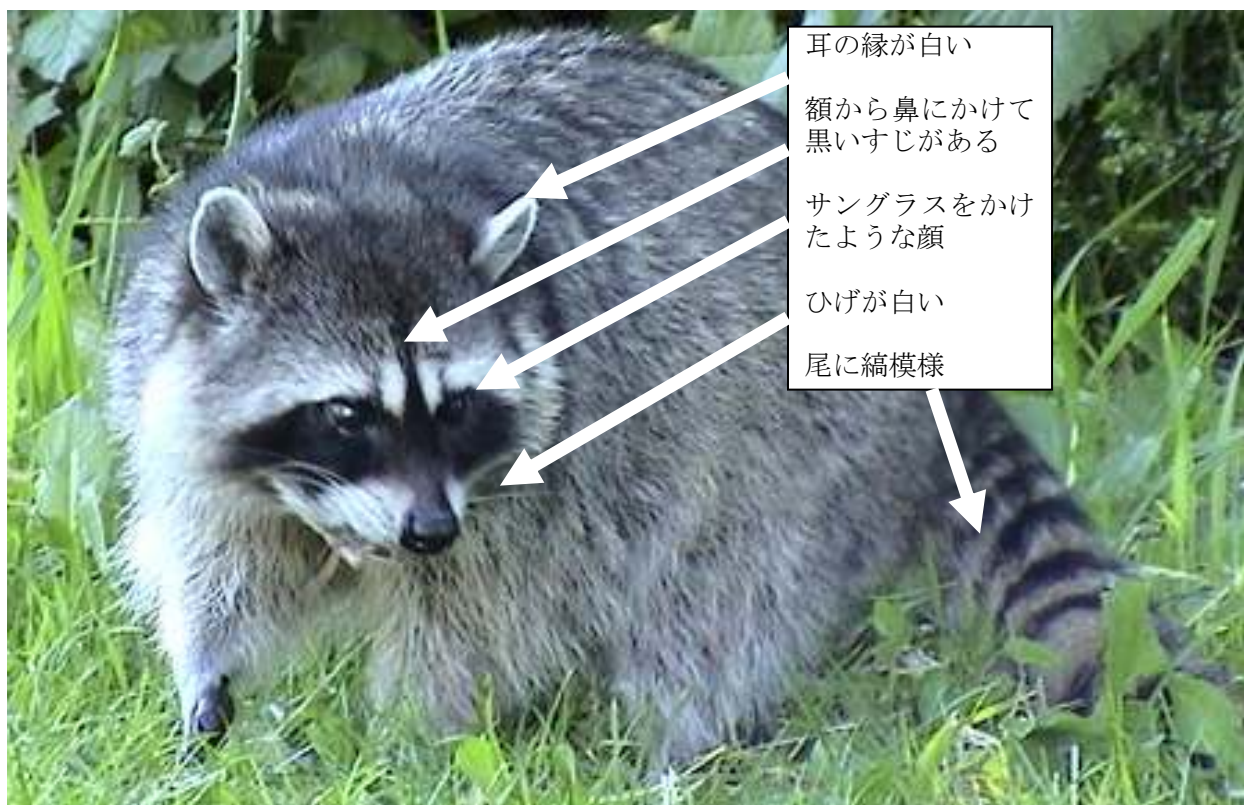


アライグマ連続シンポジウム2012

9月1日 京都府舞鶴市：舞鶴市のアライグマ：現状・対策とアライグマの感染症
リスクをどのように回避するか

9月2日 東京都武蔵境：日本のアライグマ：現状・対策とアライグマの感染症
リスクをどのように回避するか

資料集



アライグマの毛色は黒みがかった灰色。やや赤みがかったこともある。
額から鼻にかけて黒いすじがある。鼻は黒い。目の回りはサングラスをかけたように黒い。
耳のふちは白い。ヒゲも白い。頭を下げてやや猫背の姿勢で歩く。



アライグマが来ていませんか？早く対策を！

アライグマは今、日本中に拡がって、身近なところにやって来ています。「アライグマのチェックシート」に該当する内容が1つでもあったら、アライグマが来ていたり、住み込んでいる可能性が高いのでご注意ください。アライグマを目撃したり、天井裏で大きな足音が聞こえても、追いかけたり、自分たちで手づかみで捕まえようとするのは危険です。また、アライグマを捕獲するには法律の許可が必要です。許可無く勝手に捕獲したり、捕獲して山に放したりすると「特定外来生物の生態系等に係る被害の防止に関する法律」によって処罰されます。捕獲など対策はもよりの市町村窓口にご相談ください。

アライグマのチェックシート

身近まで来ている可能性があります！！

- 側溝、池のまわり、川岸などに5本指の足跡がある。
- 果樹が荒らされた。
- 池の金魚、鯉、亀、ハト、軒下のツバメの雛がいなくなった、食べられた。
- 池や小川のモリアオガエルやサワガニが極端に減った。
- 田の畦が数カ所掘られている。
- 飼い犬や飼い猫のエサが食い荒らされる。
- 中型犬くらいの動物が屋根の上で動いていた。
- タヌキのような動物を目撃したが、尾に輪模様がかった。
- 冷蔵庫の中が何者かに荒らされた。
- 田、畑、ビニールハウスなどに5本指の足跡がある。
- スイカに丸い穴が開いて中身が空になっていた。
- トウモロコシが根本から倒され食べられた。
- ジャガイモ、イチゴなどに今までなかったような農作物被害がある。

屋根裏に入っている可能性があります！！

- 社寺のお供えの饅頭、米、果実が食べられたり荒らされたりした。
- 室内やお堂内部のろうそく立てや家具などが倒され、荒らされた。
- 建物のまわりに5本指の足跡がある。
- 柱に5本の爪痕があり、複数の爪痕が上部に向けて登っている。
- 柱や戸袋、雨樋に5本指の泥のついた足跡があり上部に向けて登っている。
- 軒下の壁の一部が破壊されている。穴が開いている。
- 天井板がずれていた。
- 天井にシミができた。
- 天井から雨漏りのように水滴が滴ってくる。ゴミが落ちてくる。
- 天井裏でこれまで聞いたことのないような大きな足音がする。
- 天井裏からクルクルという、甲高い鳥のような声が聞こえる。
- 天井裏や屋根の上に犬の糞のようなものが大量にある。
- 桧皮葺や茅葺屋根に穴が開けられた。



アライグマについてのご相談は：もよりの市町村の担当窓口へ。

または関西野生生物研究所 川道（かわみち）へご相談ください。相談無料。

電話 075-551-3936 090-6076-7655 メール chipmunk@h5.dion.ne.jp

作成 関西野生生物研究所 写真提供 川道美枝子

アライグマ連続シンポジウム2012

日時：2012年9月1日12:30-16:30

場所：京都府舞鶴市字北吸1039-2
赤れんが2号棟（舞鶴市政記念館）

主催：関西野生生物研究所

共催：舞鶴市・生物多様性JAPAN

プログラム

総合司会 川道武男氏（関西野生生物研究所）

- 12:30-12:40 開会挨拶 舞鶴市
- 第1部——アライグマの現状と舞鶴市の対策
- 12:40-12:55 日本のアライグマの現状 金田正人氏（関西野生生物研究所）（資料1）
- 12:55-13:10 舞鶴市の社寺へのアライグマ侵入状況 川道美枝子氏（関西野生生物研究所・
立命館グローバル・イノベーション研究機構客員研究員）（資料2）
- 13:10-13:25 舞鶴市のアライグマ対策の現状 曾根章嘉氏
（舞鶴市産業振興部農林課 害鳥獣対策係）（資料3）
- 第2部——寄生虫や狂犬病のリスクを考える
- 13:25-13:55 外来種アライグマにおける寄生虫病疫学と宿主-寄生体関係の生態学
浅川満彦氏（酪農学園大学獣医学部教授 兼 同大野生動物医学センター施設担当）（資料4）
- 14:05-16:05 アメリカの狂犬病対策とアライグマ Dennis Slate 氏
（Science Advisor for the USDA Rabies Management Program）（資料5）
逐語訳通訳 高橋満彦氏（富山大学）
- 16:05-16:25 質疑
- 16-25-16:30 閉会挨拶 関西野生生物研究所
-

日時：2012年9月2日13:00-18:00

場所：東京都武蔵野市境南町1丁目7-1

日本獣医生命科学大学

第1校舎C棟C501

主催：関西野生生物研究所

共催：日本獣医生命科学大学野生動物教育研究機構・生物多様性JAPAN

プログラム

- 13:00-13:10 開会挨拶 日本獣医生命科学大学
- 第1部——アライグマの現状と繁殖生態 司会 川道美枝子氏（関西野生生物研究所・
立命館グローバル・イノベーション研究機構客員研究員）
- 13:10-13:40 外来種問題の概要と法制度 羽山伸一氏（日本獣医生命科学大学獣医学部教授
兼 野生動物教育研究機構機構長）（資料6）
- 13:40-14:10 日本のアライグマの現状 金田正人氏（関西野生生物研究所）（資料1）
- 14:10-14:40 アライグマの繁殖生態 加藤卓也氏（日本獣医生命科学大学獣医学部助教
兼 野生動物教育研究機構機構研究員）（資料7）
- 第2部——寄生虫や狂犬病のリスクを考える 司会 竹下信雄氏（生物多様性JAPAN）
- 14:50-15:30 外来種アライグマにおける寄生虫病疫学と宿主-寄生体関係の生態学
浅川満彦氏（酪農学園大学獣医学部教授
兼 同大野生動物医学センター施設担当）（資料4）
- 15:30-17:20 アメリカの狂犬病対策とアライグマ Dennis Slate 氏
（Science Advisor for the USDA Rabies Management Program）（資料5）
逐語訳通訳 高橋満彦氏（富山大学）
- 17:20-17:50 質疑
- 17:50-18:00 閉会挨拶 関西野生生物研究所
-

アライグマ連続シンポジウム2012開催にあたって

日本において、生物多様性を損壊する主要な要因の一つに外来生物の問題があります。特にアライグマは適応能力の高さ、利用できる食物の幅も広く、繁殖力の高さとも相まって、日本の生物多様性に重大な脅威となっています。しかしながら、日本各地でアライグマの侵入と分布拡大に気づいていない人々も多く、有効なモニター手法の開発が望まれてきました。本会はこれまで社寺等の木造建造物へのアライグマ訪問や侵入を爪痕によって、いち早く検知できる手法を開発しましたが、こうした手法の普及とともに、アライグマ対策に関する様々な智恵を結集し、対策に取り組む各セクターの人々の間で知識の共有が緊急の重要課題の一つであると考えます。

今、日本では、47都道府県の総てにアライグマが分布しているという現状があります。アライグマの野生化が知られるようになってからほぼ50年たっていますが、その間にアライグマが自然生態系や農作物、民家や社寺などの歴史的建造物にどのように被害を与えてきたか、その詳細を知ることも大切です。また、アライグマが狂犬病などの危険な病原体を運搬する可能性があり、野生生物との接触やペットとの接触を通じて、様々な被害をもたらす可能性について考え、対策を検討することも重要です。

アライグマが狂犬病や寄生虫症などの人へ危害を及ぼす感染症を運ぶ可能性があることに、あらためて留意しなくてはなりません。もし、万一、狂犬病や危険な寄生虫症を持ったアライグマが侵入してきたら、私たちはどのように、そのリスクを回避できるでしょうか。日本各地の貿易港に各国からたくさんの船がやって来ますが、その船に動物が乗っていて、こっそりと上陸したら、それらの動物とアライグマが接触したら、危険な病気が広がるかもしれません。

このたび、京都府舞鶴市と東京武蔵境の日本獣医生命科学大学の協力を得て、2回の連続シンポジウムを開催することとなりました。今回はアメリカから狂犬病対策の専門家を招き、海外のアライグマに関わる疫病対策を学び、日本国内でのリスク管理に役立てるとともに、リスクに関心のある人々との情報交換の場となることを願っています。

このシンポジウムを開催するにあたって、経団連自然保護基金と独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の平成24年度の助成をいただいたこと、共催していただく舞鶴市、生物多様性JAPAN、日本獣医生命科学大学野生動物教育研究機構、これまで、ご協力ご支援いただいた京都仏教会、立命館グローバル・イノベーション研究機構、アライグマの食性の資料をご提供いただいた加古敦子さん、調査や資料提供にご協力いただいた各府県、市町村に厚くお礼申し上げます。

2012年9月1日
関西野生生物研究所
代表 川道美枝子